

2023
9・18 月4回
月曜日発行
第1310号

週刊ビル経営

発行所 (株)ビル経営研究所
〒104-0061
東京都中央区銀座7-17-12 2F
TEL 03(3543)7421
FAX 03(3543)5839
発行人 垂澤清三
年間購読料 33,000円(税込)
KAMEOKA NEWS AGENCY CORPS
亀岡大郎取材班グループ

ソーコに学ぶ ビル経営



イーソーコ総合研究所
代表取締役 出村 亜希子
奈良女子大学大学院修了後CM
会社を経て現職。一級建築士、
宅建士。「倉庫ドクター」とし
て建築面からオーナー支援に取
り組む。

昨今、大規模なマル必要などだけ使えるテナント型の物流不空間、心地よく過ごせる動産において、デザインする空間をつくり、提供ナーが趣向を凝らしたしてきました。

こうしたシェアリングスペースのと、集中力が高まり、充実は、テナントの満足度を高めるのに有効で、賃貸でも、空間の活用頻度建物では、選ばれた物件として大きな加要素となりえるでしょう。

第64回「高まるアメニティスペースの価値」

が、今後はプラスαの付加価値をつけないとテナント誘致に苦戦するかもれません。コロナ禍を経て働き方やおフィスのあり方に変化が生まれました。家具は種類が、おフィスのデザイン、インテリアの動きもありません。オフィスの供給が増え、空室率が高まる。家具リノベーション、時代の変化に対応するフレキシブルな空間をつくっていきなアメニティスペース。そのようななか、最も

近、建物のオーナー様から、テナントのニーズに添えて物件の価値を高めるアメニティスペース構築のご依頼が増えています。この空間づくりはオーナーの個性が出るポイントであり、大いに工夫のしがいのあるところと申します。テナント視点でいえば、オフィスコンパクトにして固定費となる賃料を抑えつつ、建物内のシェアリングスペースも利用するのは合理的な選択といえます。気分を変えて滞在したり働いた